

長崎県子連 NEWS

長崎県子連ニュース No.53

2026 年(令和 8 年) 9 月

<https://www.kodomo-kai.or.jp/nagasaki/>

つながいを深め、広げる子ども会

県子連事務局長

鈴木 徹



子ども会事務局にお世話になって6年目を迎えています。それまでは、地域の行事や子ども会活動にはほとんど参加していませんでした。そんな私ですから、

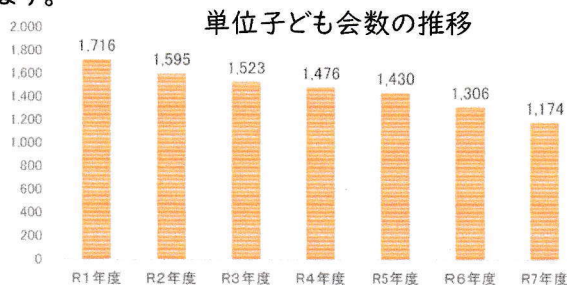
子ども会への理解も曖昧で、例えば、

子ども会とは、小学校に入学した子どもが入り、毎年同じような活動を大人の世話で行っている団体という程度のとらえ方をしていました。

それが、たいへんな誤解であるということ、県子連や九州、全国の事業や会議に参加する中で、身にしみて感じました。子ども会には、年齢制限もなければ、しなければならない活動もありません。

地域の子どもや大人が集まって、子どもたちがしたいことを子どもたちで計画し、子どもたちで実行していくのが本来の子ども会です。大人は子どもの活動を見守り支援する立場でいいのです。

そんな子ども会ですが、現在、危機的な状況にあります。



単位子ども会の数が、令和元年度には 1,716 団体だったのが、減少の一途をたどり、昨年度には、1,174 団体にまで減った、つまり、7年間で 542 の単位子ども会が解散したということです。

みなさんの地域でも、単位子ども会がなくなったり、子ども会に入会している人数が減ってきたりしていませんか。少子化にストップがかからない現状では、この傾向は今後も続いていくと思われます。

一方で、これまで子ども会が行っていた夏休みのラジオ体操や、秋のお祭り等は自治会主催で継続しているという話も耳にします。また、単位子ども会はある

けれど、市や町、県の子ども会連合会には所属していないという子ども会もあるそうです。それぞれ地域の実情があるのでしょう。

ここで、改めて子ども会のよさについて考えてみます。子ども会のよさは、一言で言うなら「つながり」ではないでしょうか。子ども会が存続することにより、地域の子どもたちが、親が、住民がつながり、仲良くなり、地域のネットワークが広がり、ひいては安全・安心な街づくりが実現できると考えます。

地域で子どもや大人が出会っても挨拶したり、声をかけ合ったりする姿が見られなくなっている現在、子ども会ができると、「元気?」「何しているの?」など、互いに声をかけ合うようになり、地域内のつながり・絆が深まっていくと思います。

では、県子連に所属するよさは何でしょうか。それは、地域内でのつながりが、他の市や町へ、さらには、九州、全国へと広がり、深まっていくことが可能になるということではないでしょうか。



8 月初旬に実施した県子連ジュニア・リーダー研修会には、7市2町からの参加者が集まりました。「新しい友だちがたくさんできて嬉しかった。」「他の子ども会の様子がわかり参考になった。」「上級生がかっこよかったので自分もそうになりたい。」等の感想が多く聞かれました。そのような機会を得られることは、子どもにとっても大人にとってもたいへん有意義なことではないでしょうか。

さらに、県子連に所属するということは、自動的に全子連所属として安全共済会や賠償責任保険に加入することとなり、安心して子ども会活動に参加することができます。小さなかけ金で多くの補償が得られる制度はたいへん喜ばれているところです。みなさん、子ども会に入りましょう。子ども会を楽しみましょう。

令和8年度(一財)長崎県子ども会育成連合会

★第1回理事会 ★評議員会

令和8年5月15日(金)に第1回理事会を、6月5日(金)に評議員会を、「県教育会館」大会議室においてそれぞれ開催しました。

県教育庁生涯学習課課長「藤井大作」様、県こども政策局こども未来課課長「中村直輝」様、にご来賓として出席いただき、ご祝辞をいただきました。

本年度は、理事・監事の改選期ではありませんが、各市町子連の人事異動や子ども会の役員改選等により、評議員の一部にも交代があり、次のように理事、監事、評議員が承認されました。

県子連理事及び監事

役 職	氏 名	選出地区	備考
理事(会長)	北御門長蔵	諫 早 市	
理事(副会長)	三浦 正二	長 崎 市	
理事(副会長)	諸橋 芙美	佐世保市	
理事(副会長)	吉田 真	島 原 市	
理 事	本岡 香織	平 戸 市	
理 事	松下一徳	長 与 町	
理 事	原 雄一郎	新上五島町	
監 事	吉村 正春	長 崎 市	
監 事	垣内 一幸	長 崎 市	

理事、監事の任期は、令和7年4月1日から令和9年3月31日までの2年間とする。

県子連評議員

選出地区	評議員	(旧評議員)	備考
長 崎 市	久保 大輔		
佐世保市	長嶺 紀子		
島 原 市	喜多 三郎		
諫 早 市	石場加代子		
大 村 市	曾場尾雅宏		
平 戸 市	戎湯 華音		
松 浦 市	高橋 聡美		
対 馬 市	永留 美紀	(春田 新一)	(新)
壱 岐 市	長田 大河		
五 島 市	千代田慎一		
西 海 市	渋谷 恵子		
雲 仙 市	前川 勝秀		
南島原市	佐藤 匠実	(鈴木 理奈)	(新)

長 与 町	田中 直登		
時 津 町	東 良隆	(西嶋 太郎)	(新)
東彼杵町	吉田 悠希	(木場 香)	(新)
川 棚 町	川添 光	(一ノ瀬正章)	(新)
小値賀町	山元 忍		
佐 々 町	稲澤 昂平		
新上五島町	濱田 俊彦		

評議員の任期は、令和7年4月1日から令和11年3月31日までの4年間とする。

県子連専門委員(会長委嘱)

役 職	氏 名	地 区	備考
専門委員長	谷口久美子	西 海 市	
専門副委員長	平山 仁	諫 早 市	
専 門 委 員	宮田 龍郎	諫 早 市	

専門委員の任期は令和7年4月1日から令和9年3月31日までの2年間とする。

令和8年度(下半期)の主な事業

事 業 名	日 程	会 場
①全国ジュニア・リーダー研修会	10/10(土) ～ 10/12(月)	川崎市
②九州各県(政令都市)子連会長・事務局長会議	10/30(金)	鹿児島市
③九州地区子ども会育成研究協議会鹿児島大会	10/31(土) ～ 11/1(日)	鹿児島市
④全国子ども会育成中央会議・研究大会	11/21(土) ～ 11/22(日)	大阪市
⑤長崎県子ども会指導者・育成者研修会(東彼大会)	2/7(日)	川棚町中央公民館
⑥長崎県子ども会伝承芸能大会(対馬市大会)	2/14(日)	対馬市公会堂
⑦県子連第2回理事会	3/12(金)	長崎県教育会館大会議室

令和8年度 長崎県子ども会 ジュニア・リーダー研修会

本年度長崎県子ども会ジュニア・リーダー研修会を、8月1日(土)～3日(月)の3日間、長崎市日吉自然の家で開催しました。

これまで35年にわたり、新上五島町で行ってきた研修場所を長崎市へ変更いたしました。台風や雷、猛暑等最近の気候変動、高速船や貸切バス等の交通費、船酔いや感染症等への対応などの観点から、理事会の賛同を経て決定いたしました。

応募数が例年に比べ激減し、一時は開催自体が危ぶまれましたが、小学生14名、中学生13名、高校生2名、ユース・リーダー1名、成人12名、計42名で実施しました。



ようこそ日吉へ!



子ども会で何してる?



どっちが高いかな?



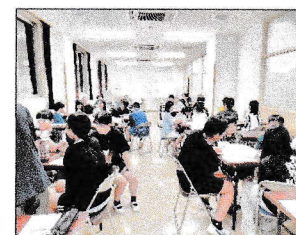
スピーチ ドキドキ!



美味しく! 楽しく!



仲良くなります!



反省会も班ごとに!



ラジオ体操1、2、3、4...



指先に力をこめます!



次は何をしますか?



けがを防ぐぞ!



お土産にしたいな!



お世話になりました!!

初めて開催場所を変えての今年の研修会でした。会場変更に伴うプログラムの作成、日吉自然の家との打合せ、予算減に伴う人員の配置、熱中症対策等、試行錯誤を繰り返しながら当日を迎えました。

遠方の新上五島町から多くの参加がありとても嬉しく思いました。日吉自然の家の所長様をはじめ、職員の皆様にはきめ細やかな対応と指導を賜りました。心からお礼申し上げます。

子どもたちのふり返りには、協力して活動することの楽しさやリーダーとしてのあり方、他地域の人との交流についての記述が多く見られ、研修会の趣旨が十分に伝わっていると感じ、頼もしく思いました。

引率していただいた保護者、指導者の方からは、開催時期や場所、プログラムの内容等、今後に向けての課題も挙げていただいています。特に、研修会を開催するにあたって、研修会の趣旨や参加させる場合の送迎方法、持ち込み禁止品、写真撮影と活用法、発病や事故への対応等、事前に保護者の理解と承諾をいただくことの必要性を指摘していただきました。今後の計画に生かしてきます。

いずれにいたしましても、年間で最も高温を迎えた8月初旬の3日間、急病者やケガの発生もなく、無事に終えることができたことを、関係するすべての皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

⑥ 諫早市子ども会育成連合会「野外活動講習会(キャンプ講習会)」

毎年夏休みの最初の日曜日に、夏休み期間中の事故防止のための専門指導員会を中心に野外活動講習会を開催しています。



“最善を尽くして最悪に備えること!”

諫早市子ども会育成連合会は、いろいろな活動や経験を活かして地域で見守る、地域で育てるを実践しています。

⑦ 大村市子ども会育成連合会「水ロケット大会」

毎年恒例のこの大会は、今年で24回目を迎え、チーム対抗で飛距離を競います。ペットボトルで水ロケットを作るところから始まり、チーム一丸となってオリジナルのロケットを製作します。真っ直ぐ、長い距離を飛ばすにはミリ単位での調整が重要です。

大会本番では、みんなで協力して作ったロケットを遠くに飛ばすために、一生懸命空気を注入します。カウントダウンの合図で発射ボタンを押すと、きれいな弧を描きながら飛んでいくロケットがあれば、弾丸ライナーで飛んでいくものもあり、それらを見て大きな歓声も上がります。遠くに飛ばせたチームも思うような結果にならなかったチームも終わってみればみんな笑顔のこの大会を、今後も継続させていこうと思います。

